

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-277887

(P2007-277887A)

(43) 公開日 平成19年10月25日(2007.10.25)

(51) Int. Cl.

E O 4 F 13/08 (2006.01)

F I

E O 4 F 13/08

E O 4 F 13/08

E

H

テーマコード (参考)

2 E 1 1 O

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2006-104288 (P2006-104288)

(22) 出願日 平成18年4月5日(2006.4.5)

(71) 出願人 000198787

積水ハウス株式会社

大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号

(71) 出願人 000175560

三協立山アルミ株式会社

富山県高岡市早川70番地

(74) 代理人 100075502

弁理士 倉内 義朗

(72) 発明者 藤井 紗生

大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水

ハウス株式会社内

(72) 発明者 一針 建支

大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水

ハウス株式会社内

最終頁に続く

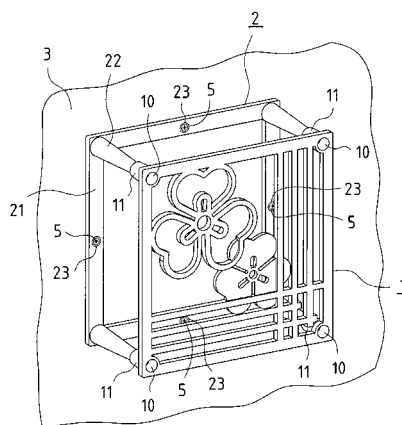
(54) 【発明の名称】 壁化粧飾り構造

(57) 【要約】

【課題】ワンポイントでありながら十分な印象が得られ、壁面を表情豊かに装飾することができる壁化粧飾り構造を提供する。

【解決手段】 装飾面に、少なくとも装飾面を貫通する装飾模様が穿孔されるとともに、この装飾面の裏面には壁面3に取り付けるための取付部11が突出されてなる装飾材1と、装飾材1の取付部11に対応する脚部22が、壁面3に当接可能な当接枠21から延設されてなる枠体2とからなり、壁面3に枠体2を介して装飾材1が設けられ、脚部22および取付部11の合計の長さぶんだけ壁面3から離れた位置に装飾材1が取り付けられてなる壁化粧飾り構造である。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

装飾面に、少なくとも装飾面を貫通する装飾模様が穿孔されるとともに、この装飾面の裏面には壁面に取り付けるための取付部が突設されてなる装飾材と、

装飾材の取付部に対応する脚部が、壁面に当接可能な当接枠から突設されてなる枠体とからなり、

壁面に枠体を介して装飾材が設けられ、脚部および取付部の長さぶんだけ壁面から離れた位置に装飾材が取り付けられてなることを特徴とする壁化粧飾り構造。

【請求項 2】

壁面と装飾材との間の枠体内に、照明装置が設けられてなる請求項 1 記載の壁化粧飾り構造。 10

【請求項 3】

請求項 1 または 2 記載の壁化粧飾り構造の壁面に併設して、この壁化粧飾り構造と同じ装飾材のみが壁面または窓に固定され、装飾材の装飾模様が壁面のモチーフとして強調されてなる壁化粧飾り構造。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、壁面に設けることにより、これら壁面を装飾する壁化粧飾り構造に関するものである。 20

【背景技術】

【0002】

一般に、住宅建物は、装飾模様が形成された外壁材を施工することで、外観が装飾されている。

【0003】

しかし、この場合、外壁材の表面に形成された装飾模様のみによる装飾だけなので、外観にアクセントがない。

【0004】

そこで、従来より、外壁の外観に特徴を与えるものとして、壁の切り替えし部分や窓周りなどの外壁表面に外壁材とは別の装飾材を設けたりすることが行われている（例えば、特許文献 1 参照。）。 30

【特許文献 1】特開平 11-241478 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかし、上記従来のように外壁材の表面に取り付ける装飾材の場合、外壁材と一体化する範囲で形成されており、装飾材だけが際立って特徴になるような装飾の仕方では無かった。

【0006】

そこで、本発明者らは、外壁の一部に設けることで、際立って特徴となるような装飾材として、外壁とは異なる鋼材によって形成した化粧飾りを提案した。 40

【0007】

そして、この装飾材を有効に機能させる取付構造として、枠体を利用して壁面から離して装飾材を取り付けることで、局部的でありながら十分な印象が得られ、壁面を表情豊かに装飾することができる壁化粧飾り構造を見出した。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記課題を解決するための本発明の壁化粧飾り構造は、装飾面に、少なくとも装飾面を貫通する装飾模様が穿孔されるとともに、この装飾面の裏面には壁面に取り付けるための取付部が突設されてなる装飾材と、装飾材の取付部に対応する脚部が、壁面に当接可能な 50

当接枠から突設されてなる枠体とからなり、壁面に枠体を介して装飾材が設けられ、脚部および取付部の長さぶんだけ壁面から離れた位置に装飾材が取り付けられてなるものである。

【0009】

また、上記壁化粧飾り構造において、壁面と装飾材との間の枠体内に、照明装置が設けられてなるものである。

【0010】

さらに、上記壁化粧飾り構造の壁面に併設して、この壁化粧飾り構造と同じ装飾材のみが壁面または窓に固定され、装飾材の装飾模様が壁面のモチーフとして強調されてなるものである。

10

【発明の効果】

【0011】

以上述べたように、本発明によると、壁面から脚部および取付部の長さぶんだけ離れた位置に装飾材を取り付けることができる。しかも、装飾材は、少なくとも装飾面を貫通する装飾模様を穿孔して形成しているため、どれだけ突設されているのか貫通された孔の部分を通して奥行き感が強調されることとなる。したがって、局所的な装飾でありながら充分に立体感のある印象が得られ、壁面を表情豊かに装飾することができる。

【0012】

また、この装飾材と壁面との間の枠体内に照明装置を設けておけば、夜間でも、装飾材の装飾模様を浮かび上がらせて壁面を表情豊かに装飾することができる。

20

【0013】

さらに、上記壁化粧飾り構造の壁面に併設して、この壁化粧飾り構造と同じ装飾材のみを壁面または窓に固定すれば、装飾材のみを固定した箇所は装飾材が壁面に近く、上記壁化粧飾り構造の箇所では装飾材が壁面から離れた位置にあり、同じ装飾材の壁面からの突出具合に差が生じるので、装飾材の装飾模様を壁面のモチーフとして立体的に強調することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

以下、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

【0015】

図1、図2は、壁化粧飾り構造の全体構成の概略を示し、図3は同壁化粧飾り構造の要部断面構成を示している。

30

【0016】

すなわち、この壁化粧飾り構造は、装飾材1と、枠体2とからなり、壁面3に枠体2を介して装飾材1が取り付けられている。

【0017】

装飾材1は、アルミニウムの鋳物からなり、一辺が約20cm、厚さ約5.5mmの略正形状に形成された装飾面には、裏面に貫通する装飾模様が形成されている。装飾模様は二つの花と破れ井げたとを組み合わせたような模様となっている。一つの花は輪郭以外が貫通し、他方の花は表面が凹設されて花びら全体が板状のまま残るような形状に形成されている。また、装飾面の四隅の裏面からは、基端直径約17mm、先端直径約15mm、高さ20mmの略円錐柱状の取付脚部11が突設されている。この取付脚部11内には連結ボルト孔10が穿孔されており、連結ボルト孔10内には、連結ボルト4の頭41が係止される段部12が形成されている。また、取付脚部11の突設先端部にも、後述する枠体2の脚部22の突出先端部が嵌まり込む段部13が形成されている。

40

【0018】

枠体2は、アルミニウムの鋳物からなり、一辺が約20cm、幅約15mm、厚さ約5mmの略正形状に枠組みされた当接枠21の四隅から、基端直径約17mm、先端直径約12mm、高さ約71mmの略円錐柱状の脚部22が突設されて形成されている。この脚部22の先端部内には連結ボルト孔20が穿孔されている。また、当接枠21の各辺の

50

中心には、枠体 2 を壁面 3 に固定ボルト 5 で固定するための固定ボルト孔 2 3 が設けられている。

【0019】

次に、壁化粧飾り構造の施工手順について説明する。

【0020】

まず、壁面 3 の所望の位置に、枠体 2 を当接し、固定ボルト孔 2 3 から固定ボルト 5 をねじ込んで壁面 3 に枠体 2 を固定する。

【0021】

次に、この枠体 2 の脚部 2 2 の先端部を装飾材 1 の段部 1 3 に嵌め込むようにして、脚部 2 2 上に装飾材 1 を設ける。そして、装飾材 1 の連結ボルト孔 1 0 から枠体 2 の脚部 2 2 の連結ボルト孔 2 0 へと連結ボルト 4 をねじ込んで装飾材 1 と枠体 2 とを固定一体化する。

10

【0022】

このようにして構成された壁化粧飾り構造によると、装飾材 1 は、壁面 3 から脚部 2 2 と取付脚部 1 1 との合計の長さぶんだけ離れることとなるので、壁面 3 との一体感が薄れる。また、装飾材 1 は、少なくとも装飾面を貫通する装飾模様を穿孔して形成しているため、どれだけ突設されているのか貫通された孔の部分を通して奥行き感が強調されることとなる。したがって、広範な壁面 3 においても、局部的な装飾でありながら充分に存在感を強調することができる装飾体となる。

【0023】

また、この装飾材 1 と壁面 3 との間の枠体 2 内に照明装置 6 を設けておけば、夜間でも、装飾材 1 の装飾模様を浮かび上がらせて壁面 3 を表情豊かに装飾することができる。

20

【0024】

なお、本実施の形態において、装飾材 1 は、枠体 2 を介して壁面 3 に設けているが、このような壁化粧飾り構造を、2 個以上設けて壁面 3 を装飾するようにしてもよい。この場合、装飾材 1 の装飾模様を壁面 3 に連続することで、装飾模様の印象をより強調することができる。また、図 2 に示すように、枠体 2 を介して壁面 3 に設ける装飾材 1 と、枠体 2 を介さずに直接壁面 3 に設ける装飾材 1 とを併用してもよい。この枠体 2 の有無により、装飾材 1 の突出具合に差が出来るので、壁面 3 をより立体的に表情豊かにすることができる。その結果、装飾材 1 の装飾模様の印象を強調できるとともに、この装飾模様を壁面 3 のモチーフとして、より立体的に強調することができる。

30

【0025】

また、この壁化粧飾り構造の場合、装飾材 1 は、壁面 3 から脚部 2 2 と取付脚部 1 1 との合計の長さぶんだけ離れることとなるので、上記したような照明装置 6 を設けること以外に、壁面 3 から突出された外部コンセント、水栓、換気口、などを隠す構造として利用することもできる。

【0026】

例えば、外部コンセントや水栓の場合、壁面 3 から突出すると目立つので、人間の腰の高さよりも低い位置、好ましくはヒザ下ぐらいの高さの位置に設けられているのが常である。したがって、これらを壁面 3 の高い位置に一つだけ設けるといったことは壁面 3 の外観を害することとなるが、本発明の壁化粧飾り構造によってこれら外部コンセントや水栓を隠すようにすれば、今まで設けることが困難であった比較的高い位置にも、これらを設けることができる。そして、装飾材 1 の装飾模様により、局部的な装飾でありながら充分立体感のある印象が得られ、壁面 3 を表情豊かに装飾することができる。また、枠体 2 によって装飾材 1 と壁面 3 との間に距離があるため、間隙から手を入れて外部コンセントや水栓を使用することができる。

40

【0027】

また、最近の住宅建物は、気密性が向上しているため、室内におけるドアの開け閉めが気密性のために困難になる場合がある。そのため、屋外との間で自然換気ができるように換気口が設けられている。この換気口も、上記外部コンセントや水栓と同様に人の腰の位

50

置よりも低い位置に設けられていることが常である。しかし、室内において、このような低い位置は、サイドテーブルやソファなどの家具が置かれて塞がっている場合が多く、十分に換気口が機能しない。屋外側も同様でこのような換気口が人の目の高さに近い位置に一つだけあると壁面3の美観を損ねることとなる。そこで、本発明の壁化粧飾り構造を外壁および内壁の双方に施してこの換気口を隠すようにすれば、今まで設けることが困難であった比較的高い位置にも、換気口を設けることができる。そしてこの場合も、装飾材1の装飾模様により、局部的な装飾でありながら充分立体感のある印象が得られ、壁面3を表情豊かに装飾することができる。また、枠体2によって装飾材1と壁面3との間に距離があるため、間隙から手を入れて換気口の開閉具合を調整したりすることができる。

【0028】

10

図4および図5は本発明の壁化粧飾り構造に用いている装飾材1のみを窓7の室内側に設けている。窓7の上下枠の両側の隅部には、室内の壁面3よりも室内側に突出して取付脚部11を当接することができるように先端が屈曲された取付金具8がビス82で取り付けられている。そして、この取付金具8の先端の屈曲部81に取付脚部11を当接して装飾材1が窓7を塞ぐように設けられている。この場合、装飾材1は、室内の装飾にもなり、かつ、同じ室内または室外に、図1に示す壁化粧飾り構造を設けた場合には、各装飾材1の装飾模様が連動し、この装飾模様を室内外を含めた建物全体のモチーフとして強調することができる。

【0029】

なお、本実施の形態において、装飾材1の装飾模様は、花と破れ井げたとを組み合わせたような模様となっているが、特にこのような装飾模様に限定されるものではなく、例えば、図6に示すような模様の装飾材1であってもよい。また、装飾材1は、略正形状となされ、その四隅から取付脚部11が突設されたものとなされているが、この装飾材1の形状としては、特に正形状に限定されるものではなく、ひし形、長方形、三角形、五角形以上の多角形、円形、楕円形などの各種形状であってもよい。また、取付脚部11の数も、1～3本または5本以上であってもよい。

20

【0030】

また、本実施の形態において、装飾材1および枠体2は、アルミニウムの鋳物で形成されているが、その他の金属の鋳物であっても良いし、各種金属の溶接で構成されたものであっても良いし、コンクリートや樹脂などの成形品であってもよい。ただし、壁面3のアクセントとして強調することを考えれば、装飾材1および枠体2は、壁面3を構成する素材または色と、異なるものであることが好ましい。

30

【産業上の利用可能性】

【0031】

住宅建物における壁の装飾に利用できる。

【図面の簡単な説明】

【0032】

【図1】本発明に係る壁化粧飾り構造の全体構成の概略を示す斜視図である。

【図2】本発明に係る壁化粧飾り構造を利用した壁面の全体構成の概略を示す斜視図である。

40

【図3】(a)および(b)は、図2におけるI-I線断面図およびII-II線断面図である。

【図4】本発明の壁化粧飾り構造に使用している装飾材のみを施工した他の実施の形態を示す斜視図である。

【図5】(a)は、図4におけるIII-III線断面図、(b)は(a)におけるIV-IV線断面図である。

【図6】装飾材の装飾模様の他の実施の形態を示す正面図である。

【符号の説明】

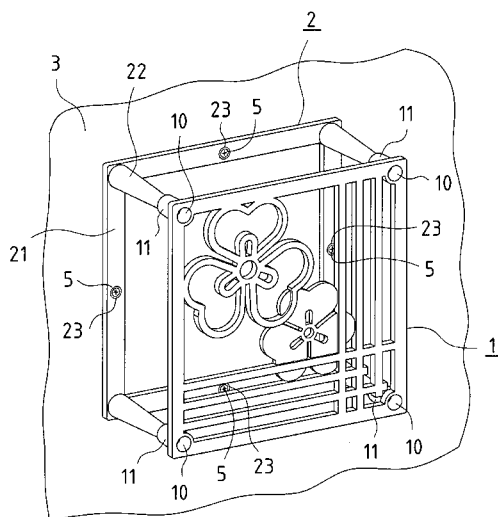
【0033】

1 装飾材

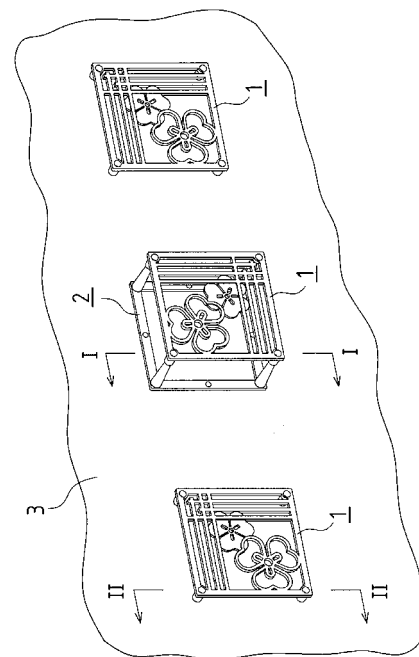
50

- 1 1 取付脚部（取付部）
- 2 枠体
- 2 1 当接枠
- 2 2 脚部
- 3 壁面
- 6 照明装置
- 7 窓

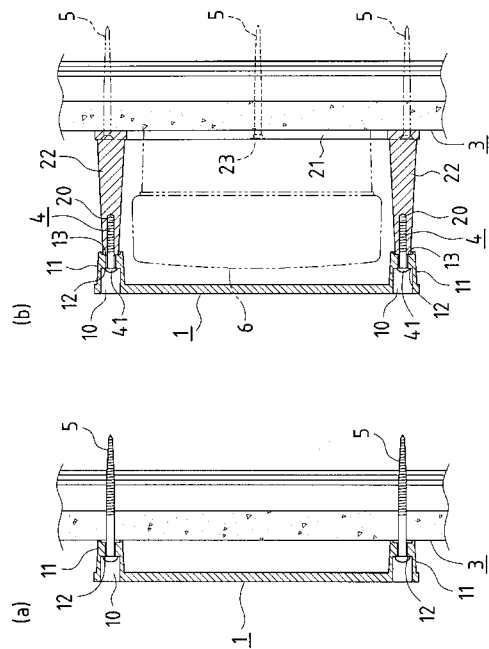
【図 1】



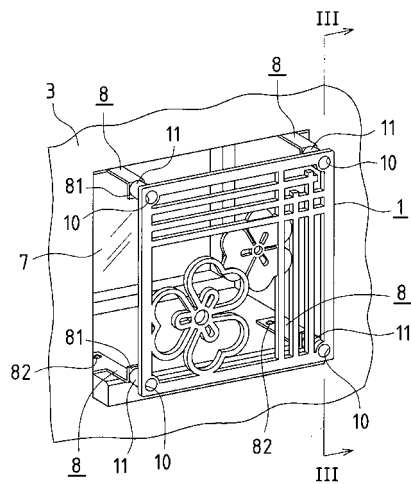
【図 2】



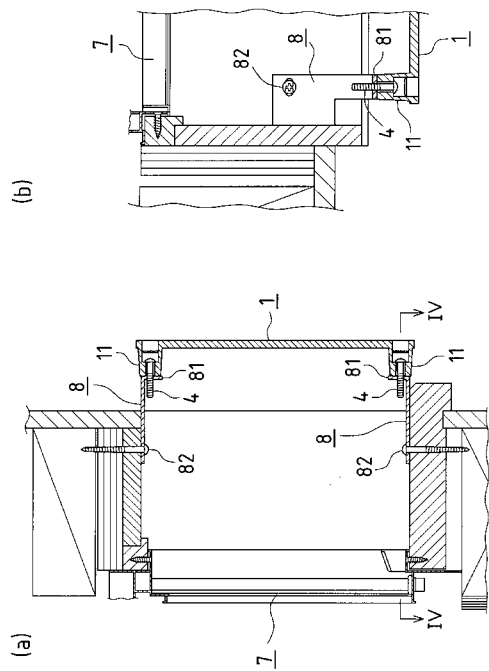
【図 3】



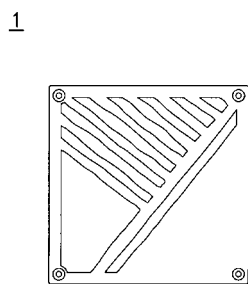
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(72)発明者 佐伯 正義

富山県高岡市早川 7 0 番地 三協アルミニウム工業株式会社内

(72)発明者 高辻 宏

富山県高岡市早川 7 0 番地 三協アルミニウム工業株式会社内

Fターム(参考) 2E110 AA09 AA35 AA57 AB04 AB15 BA12 BB22 BB24 CA03 CA08
CC03 DA09 DC12 EA07 GB01W GB01Y GB06W GB06Y GB23W GB23Y
GB42W GB42Y